



PDF版を砺波市HPからダウンロードできます。

子育て世代に

おすすめの1冊

砺波市教育委員会

近年、親同士の交流機会が減ったことで、子育ての悩みを抱えたまま相談できない方が増えています。

そこで、親としての悩みを解消し、子どもとの関わり方を学ぶために、ぜひ読んでほしいおすすめの本を紹介します。

選書 藪 道子(令和7年度砺波市親学びスーパーリーダー)

杉森 貢(令和5年度砺波市親学びスーパーリーダー)

未就学児の保護者向け

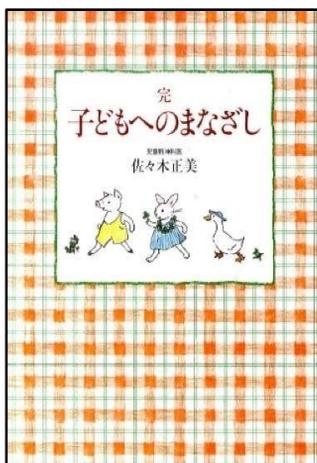


「子育てハッピーアドバイス」

明橋大二(著) 1万年堂出版

オススメポイント

頑張りすぎのお母さんへの応援になる本。読みやすく、ストーンと心に入ってくる。(藪)



「子どもへのまなざし」

全3巻

佐々木正美(著) 福音館書店

オススメポイント

幼児期から思春期の子育てに親がどのような心構えで臨むべきか丁寧に述べている。理論的な部分が知りたい人はお薦め。(杉森)



「ぼくが子どものころ、ほしかった親になる」

幡野広志(著) PHP研究所

オススメポイント

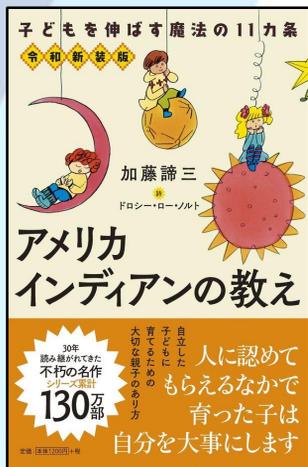
ガンで余命宣告を受けているカメラマンの著者より、まだ幼い子へのラブレター。子どもへの大きな愛情が感じられる。(藪)

ここで紹介する本は砺波図書館で所蔵しています。ぜひご利用ください。

蔵書検索システム「となみっけ!」で貸出状況をチェックできます。



裏面に続く

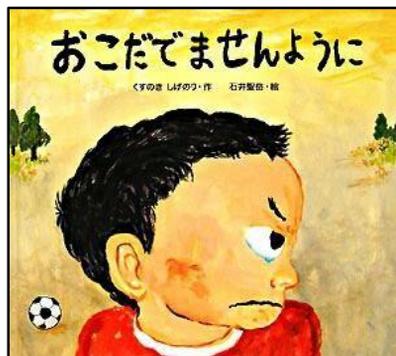


「アメリカインディアンの教え」

加藤諦三(著) 扶桑社

オススメポイント

当たり前のように難しい子どもとの関係について、多くの示唆を与えてくれる。(藪)



「おこだでませんように」

くすのきしげのり(作)/石井聖岳(絵) 小学館

オススメポイント

つつい大人の都合で子どもを怒っていないかとも反省させられます。読後に泣く人がたくさんいますよ。(藪)



「子育てはだいたい大丈夫」

森戸やすみ(著) 内外出版社

オススメポイント

子育て中に理不尽に責められたとき、自責の念にかられたとき、不安やイライラしたときなどに読むとよい本。(杉森)



「ママの心がふわりと軽くなる子育てサプリ」

佐々木正美/松本ぷりっつ(著) 主婦の友社

オススメポイント

日頃の子育ての悩みを分かりやすい言葉と挿絵で説明し、心を楽にしてくれる一冊。(杉森)



「どうか忘れないでください、子どものことを」

佐々木正美(著) ポプラ社

オススメポイント

「子どもはかわいがられるからいい子になる」というチルドレンファーストに基づく本の主張は非常に説得力がある。(杉森)

「子育て『愛ことば』」

フォスター・クライン/ジム・フェイ(著) 菅靖彦(訳) 三笠書房

オススメポイント

子どもへの愛が伝わる言葉がけが自立への階段を自ら登らせ、子どもの成長を促していくという。(杉森)

「子どもは『話し方』で9割変わる」

福田 健(著) 経済界

オススメポイント

筆者は我が子をコミュニケーション未熟児のまま社会に放り出してはいけないと説く。(杉森)

親を学び伝える学習プログラム(通称 親学び)とは
⇒講座やグループワークを通して、親の役割や子どもへのかかわり方の気づきにつなげることを目指す参加型学習のこと

とやま親学び

詳しくは、富山県のホームページをチェック!



「親を学び伝える学習プログラムについて」
富山県ホームページ